鉄 鋼 商 況

東 京

異形棒

現状価格を維持

異形棒鋼はベースサイズの直送でトン6万円で横ばい。5万円台の取引も散見されるが、メーカーは価格優先の取引姿勢を強めているため、全体的に現状価格を維持している。ゼネコンも当面の手配を済ませており、取引量低迷は続く見通しのなか、市況は同値圏で推移しそうだ。

5月のメーカー受注量は、4月並み水準となりそうだ。関東地区で20万㌧を割り込むペースは7－8月まで続くとの見方もある。メーカー契約残が4－5カ月あるうえ、マンション計画も現場の人材不足などで遅れていることも取引量低迷影響の要因となっているようだ。

鉄スクラップ電炉買値が弱基調となっているなかで、上値の引き上げは難しくなってきた。ただ、現状の出荷単価と鉄スクラップ電炉買値のスプレットでは採算確保が困難なため、メーカーは値下げには応じにくい状態。減産など需給引き締め策を実行しながら、市況の維持に努めている。

STK

いぜん様子見商状

一般構造用鋼管（溶接鋼管、STK）は依然として様子見状態で推移している。ベースサイズの直送でトン6万円で横ばい。5万円台の取引も散見されるが、メーカーは価格優先の取引姿勢を強めているため、全体的に現状価格を維持している。ゼネコンも当面の手配を済ませており、取引量低迷は続く見通しのなか、市況は同値圏で推移しそうだ。

5月のメーカー受注量は、4月並み水準となりそうだ。関東地区で20万㌧を割り込むペースは7－8月まで続くとの見方もある。メーカー契約残が4－5カ月あるうえ、マンション計画も現場の人材不足などで遅れていることも取引量低迷影響の要因となっているようだ。

鉄スクラップ電炉買値が弱基調となっているなかで、上値の引き上げは難しくなってきた。ただ、現状の出荷単価と鉄スクラップ電炉買値のスプレットでは採算確保が困難なため、メーカーは値下げには応じにくい状態。減産など需給引き締め策を実行しながら、市況の維持に努めている。

足元の地区相場は、ベースサイズ（STK400、直径48・6㍉×肉厚2・3㍉）で中心値トン10万5000－10万7000円と前週から大きな変化は見られていない。

足元は溶接鋼管専業メーカーの一般構造用鋼管販売価格に表立った動きが出ていないことや、需給に大きな変化が見られていないことを背景に、地区内の流通は店売り価格に対し慎重な対応を続けている。

メーカーは4月出荷分の販売価格引き上げを表明したものの、今のところ市中流通には浸透していない。ただ、メーカーの値上げは、市況の下支え要因にはなっており、市中では、「これ以上、相場が下落することは考えにくい」（地区内特約店）などといった見方が多い。

目先、地区内の一般構造用鋼管市況は様子見状態で推移すると考えられる。

H形鋼

ベース7.2万円中心

H形鋼は7万2000円（ベーススサイズ、置き場渡し）どころで、横ばいの推移となっている。

大型連休明けも引き合いは低調に推移している。店舗、倉庫、事務所などの建設計画はそれなりにあると言わるが、特約店への注文が大きく増加するには至っていないもよう。"まずまず出ているが、春以降、引き合いが上向くことを期待していたため、今の需要水準では満足できないのではないか"（特約店筋）という。

荷動きの低迷や流通の仕入増などにより、市中在庫は増加傾向となっている。ただ、今後は減少に転じるとみる向きが多い。

メーカーの大幅値上げ分の価格転嫁が道半ばにとどまったまま、市況は横ばいの推移となっている。"高値製品が入庫で流通の採算は大きく悪化している"が、値上げは容易に通らない（特約店筋）と嘆く声が聞かれる。当面、市況は横ばいが見込まれる。

Ni系ステン冷薄

高値寄り展開続く

ニッケル系ステンレス冷延薄板は強含み。

市中はSUS304ベースサイズ（2㍉）がトン当たり28万5000－29万5000円どころ中心。

市中は引き続き高値寄りでの展開。実需は少しずつ回復傾向となっている一方、LMEニッケル価格の下落傾向やステンレススクラップ価格の続落など原料価格が下押しするなか、流通筋の値上げ浸透も「当初予定からは若干遅れている」（関係筋）状況。ただ、メーカーの強気姿勢が続くなか、流通各社も6月をめどにトン30万円の市況浸透に向けた取り組みを進めている。

流通筋の販売状況も4月は年度末環境の反動から若干下押したものの、足元では「年度後半に向けた引き合いも、確実に増加している」（同）との向きも多く、市況上伸に向け、ここが踏ん張りどころといった状況か。

市況展望

Market Conditions

東京・薄板

市況押上げの兆し

東京地区の薄板市場は荷動きの低迷を受け、市況は依然横ばいで推移している。ただ、直需向けのひも付き契約については、向け先によってばらつきがあるものの、トン数千円台後半から1万円超の値上げで決着したケースも出てきており、次第に店売り市場にも波及し、市況を押し上げる可能性が高い。

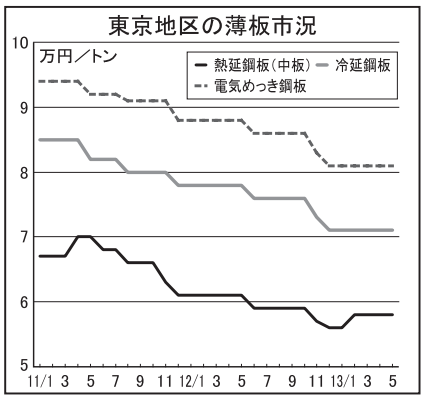
市中価格（ベースサイズ、トン当たり）は熱延鋼板（中板）が5万6000－5万8000円、酸洗鋼板が5万9000－6万1000円、冷延鋼板が6万9000－7万1000円、電気めっき鋼板が熱延ベース7万9000－8万1000円、冷延ベース8万9000－9万1000円、溶融めっき鋼板が8万－8万2000円。

鉄鋼メーカーは為替の円安進行で、輸出好調や自動車など需要家の生産増といった恩恵を受け、ロールがタイト化している。特に店売り向けは納期遅れが常態化し、足元のコイルセンター在庫は減少しているもよう。納期遅れは「平均で2週間程度。こちらから催促しないと、1カ月遅れるものもある」（関東地区のコイルセンター筋）。

全国コイルセンター工業組合によると、3月の関東・東北・北陸地区の在庫量は58万1753㌧で、在庫率は1・09カ月。前月比では0・1%増えたが、前年同月に比べると、4・5%の減少。前年同月も在庫率は1・09カ月であることから、需給バランスに変化はないが、為替水準や株価などが好転し、震災復興事業もようやく本格化の兆しが見え始めるなど、前年とは環境が一変してきたことから、先行きについては前年よりも明るさが見られる。

実際に店売り向けの鉄鋼メーカーへの申し込みは大幅値上げ実施後も減少していない。海外メーカーは日本向けの価格を急激に引き上げたほか、割安な日本相場を嫌気し、販売数量も相当絞っている。一部海外メーカーは品種によって受注をスキップしたものもあり、こうした仕入先の選択肢が狭まっていることが影響しているようだ。

流通業者は旧単価の在庫が少なくなる中、店売り、直需ともに帳端明けとなる来週から唱え上げを一層強める構え。市況は強含みに転じる見通し。

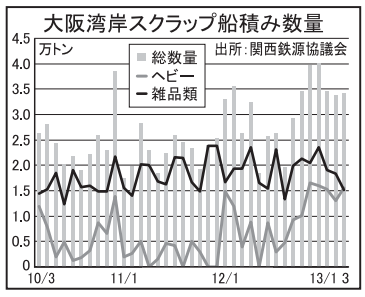


トピックス TOPICS

関西鉄源協議会（代表幹事＝黒川友二・扶和メタル社長）がまとめた3月の大阪湾岸スクラップ船積み数量は、総計で前年同月比29%増の3万4145㌧と昨年10月以降、6カ月連続で3万㌧を突破した。

内訳はヘビースクラップが293%増の1万5614㌧で、2カ月ぶりに1万5000㌧を超えた。

また、雑品スクラップ類は「中国の買いが停滞気味」（流通筋）など、22%減に1万5193㌧とどまっており、3カ月連続で2万㌧を割り込んでいる。



大 阪

H形鋼

ベース7.2万円中心

H形鋼は7万2000円（ベーススサイズ、置き場渡し）どころで、横ばいの推移となっている。

大型連休明けも引き合いは低調に推移している。店舗、倉庫、事務所などの建設計画はそれなりにあると言わるが、特約店への注文が大きく増加するには至っていないもよう。"まずまず出ているが、春以降、引き合いが上向くことを期待していたため、今の需要水準では満足できないのではないか"（特約店筋）という。

荷動きの低迷や流通の仕入増などにより、市中在庫は増加傾向となっている。ただ、今後は減少に転じるとみる向きが多い。

メーカーの大幅値上げ分の価格転嫁が道半ばにとどまったまま、市況は横ばいの推移となっている。"高値製品が入庫で流通の採算は大きく悪化している"が、値上げは容易に通らない（特約店筋）と嘆く声が聞かれる。当面、市況は横ばいが見込まれる。

Ni系ステン冷薄

高値寄り展開続く

ニッケル系ステンレス冷延薄板は強含み。

市中はSUS304ベースサイズ（2㍉）がトン当たり28万5000－29万5000円どころ中心。

市中は引き続き高値寄りでの展開。実需は少しずつ回復傾向となっている一方、LMEニッケル価格の下落傾向やステンレススクラップ価格の続落など原料価格が下押しするなか、流通筋の値上げ浸透も「当初予定からは若干遅れている」（関係筋）状況。ただ、メーカーの強気姿勢が続くなか、流通各社も6月をめどにトン30万円の市況浸透に向けた取り組みを進めている。

流通筋の販売状況も4月は年度末環境の反動から若干下押したものの、足元では「年度後半に向けた引き合いも、確実に増加している」（同）との向きも多く、市況上伸に向け、ここが踏ん張りどころといった状況か。

鉄スクラップ相場

2013年5月16日調べ、◉は上げ▼は下げ（いずれも本体価格のみ）
問屋ヤード持ち込み価格（現金、1㌧、円）
※は引き取り条件、地域により再生加工料を取るケース（逆有償）。
一印は商いなし。

	東京	大阪	名古屋	広島	北九州	東北	札幌
可鍛・配合材							
キュポラ用	36800	36400	35400	32300	—	30300	—
一般用	33800	33400	32400	29300	28300	27300	—
H S	26000	25000	23500	24800	25000	19500	16500
H 1	24300	23500	22500	23200	23000	17800	16000
H 2	22500	22500	20300	22300	22400	16000	14500
H 3	21500	21000	19300	21400	21400	15000	13500
ギロチン材 A	21000	21500	19500	21300	20500	14500	13500
〃 B	20500	20000	19000	20600	20000	14000	—
〃 C	20000	18500	18500	17500	18500	13500	—
新断プレス	26600	24500	23800	24600	24700	20100	15500
新断バラ	25600	23500	22700	24300	24000	19100	13000
鋼ダライ粉	19700	18000	14300	19200	18800	11400	11000
銑ダライ粉 A	20200	17200	14500	19700	18900	11900	13000
〃 B	19700	17000	13900	19200	18800	11400	11000
故銑（上大割）	26300	22500	21400	24600	24000	19800	14500
〃（並大割）	24800	21500	21000	23600	22500	18300	13500
自動車プレス	19500	18500	—	16000	16400	13000	11000
自動車ガラ	19000	17500	17800	14500	15900	12500	11000
モーターブロック	24000	22500	—	22000	20800	17500	15000
スチール缶（飲料缶）	19000	17000	13000	16500	19700	12500	11000
ステンレス・スクラップ							
18Cr8Ni新断	65000	65000	66000	65000	65000	70000	73000
〃（ダライ粉）	40000	35000	41000	35000	35000	50000	53000
18Cr	26000	30000	32000	30000	30000	27500	25000
13Cr	24000	28000	30000	28000	28000	26000	23000

問屋売り需要家持ち込み価格（現金、1㌧、円）

伸鉄材（上）	26000	25000	—	—	—	—	—
〃（並）	22500	23500	—	—	—	—	—

規格	厚さ	幅または高さ×長さ	単重（kg）
H S	6mm以上	500mm以下× 700mm以下	600以下電特
H 1	6mm以上	500mm以下×1,200mm以下	1,000以下特A
H 2	3mm以上6mm以下	500mm以下×1,200mm以下	1,000以下特級
H 3	1mm以上3mm以下	500mm以下×1,200mm以下	1,000以下1級

日本鉄スクラップ総合価格 5月10日調べ

H 2	22100円（▼200）	216.75㌦（▼1.96）	
新断プレス	25300円（▼200）	248.14㌦（▼1.96）	

※ 産業新聞平均 東京、大阪、名古屋の3地区相場平均(トン当たり)、ドル建てはTTS 101.96円で換算

米国鉄スクラップ総合価格 332.50㌦

（総合価格ネット） TTS1㌦＝103.17円 円換算1㌧＝ 34,304円

（No.1ヘビー、単位：トン当たりドル）

東部地区	ピッツバーグ	フィラデルフィア	シカゴ
	329.50	323.50	344.50
西部地区	ロサンゼルス	シアトル	サンフランシスコ
	—	—	—

炉前据置き様子見

東 京

鉄スクラップは横ばい。ヤード持ち込み価格は、H2がトン2万2500円、H1がトン2万4300円、HSがトン2万6000円どころ。

関東地区鉄鋼メーカーの鉄スクラップ炉前購入価格（H2ベース）はトン3万1500－3万2500円前後（16日時点）。

地場メーカーは16日時点で炉前購入価格を据え置いたままの状態。東アジア向け輸出商談への円安影響も視野に入れて、足元は様子見状態になっている。一方で、市中ヤードからメーカーへの入荷が順調なことなどを背景にして地合いの弱い中での推移となっており、製品市況も見ながら底値圏を探っている。

落札結果に注目

大 阪

鉄スクラップは弱もちあい。ヤード持ち込み価格（H2）はトン3万2000－3万3000円前後、一部トン3万4000円前後。「海外市況が低迷しており、国内市況も弱ムードが払しょくできない（流通筋）状況。地区内では電炉メーカーの鉄スクラップ購入価格（H2）はトン3万2000－3万3000円前後、一部トン3万4000円前後。「海外市況が低迷しており、国内市況も弱ムードが払しょくできない（流通筋）状況。地区内では電炉各社の鉄スクラップ入荷増などで、今週中に電炉メーカー各社の値下げが広がっている。

きょう17日には関西テンダーが行われる予定で、「韓国向け商談は難航しているが、急騰が円安基調となっている。相場の下支えとなる価格が出るかどうか」（ヤード筋）など、落札結果に注目が集まる。

鉄スクラップ商況

Iron Scrap Market Trend

仙 台

H形鋼

こう着状態続く

H形鋼はベースサイズでトン当たり7万2000円と横ばい。中小物件は動いているものの、マーケットはここ数カ月こう着状態が続く。東京製鉄の2カ月連続据え置きが影響しており、重い展開で推移している。

エンドユーザーは様子見姿勢で、流通サイドの販価も7万円台半ばから後半で停滞している。同業他社との競争も激しく、販価をなかなか上げられない。

今後出てくるとされる大型物件に期待する声が多い。

また、今月下旬に発表される東鉄の6月販価に注目が集まっている。大型連休後、原料鉄スクラップ価格が若干だが下がっている。同社が製品販価を引き下げると、昨年同様に6月以降下げ基調に転じる可能性もある。

荷動き比較的堅調

福 岡

平 鋼

平鋼はベース8万9000－9万2000円どころを強横ばい。

需要は設備向けの荷動きと引き合いが比較的堅調。造船と建築向けは一服感が広がっているなか、ボリューム減っているものの小口ながらも荷動きは堅調といえる。

特約店のスプライスプレート加工は一定水準を確保しているもよう。

市中在庫は適量域を維持している。特約店は今以上に在庫量が増えないように、メーカーへの申し込みを抑制している。

原料スクラップ価格が弱含み推移し、高値が浸透し難い状況にある。しかし流通は採算重視のため、価格転嫁を進めている。ただ足元は他の鋼材に値上げ一服感が広がっているため、様子見の横ばいとなっている。

名古屋

厚 板

需要低迷、横ばい

厚板は横ばい。市中実勢は定尺8万円（ベースサイズ、トン当たりどころ。切板は小口店売り向け9万－9万円前半どころが中心。

地区需要は、建築向けで増加傾向を指摘する声が聞かれるが、一般工作機械関連は依然として低水準なままで、市中荷動きも盛り上がりを欠いた状態で推移している。

一方メーカー販売量は「実需ベースで伸びている」（メーカー筋）と比較的堅調。高炉は4月以降での大幅値上げとともに供給も削減し、「希望数量が入らない」（問屋筋）との状況。

流通や溶断業者には、既に年明け後の値上げ玉が入荷しており、各社、価格転嫁を図っているが、店売り需要の低迷に伴い値上げは通り難いのが実態で、当面は横ばい商状が続く見通しが強い。

富 山

鉄スクラップ

いぜん先安含み

鉄スクラップは弱もちあい。地区内メーカーのH2炉前価格はトン2万9000円あたりで横ばいだが、依然として先安含み。

市中取り扱い筋の大方の予想通り、東京製鉄は連休が明けた8日入荷分から原料購入価格の引き下げを実施。地区内メーカーも即日これに追随したことから、鉄スクラップ相場の地合いは一段と悪化した。

関東鉄源協同組合の輸出入札は、足元の輸出環境の悪さを考慮すると高値落札といえる内容だった。しかし「輸出相場はまだ弱い」といった見方が強く、市況の下落幅を緩和させる程度の影響とみられる"アベノミクス"効果が実際の鋼材需要に結びついていないこともあり、まだしばらく弱含む見通し。

地方商況

Hiroshima Fukuoka Local